



県立房総のむら風土記の丘資料館前に移設展示されている瓢塚41号墳の石室



校庭に4基の古墳が残る吾妻小学校

成田歴史玉手箱

38回

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

公津原古墳群(千葉県指定文化財)

6～7世紀に築造された大古墳群



空から見た船塚古墳(図説成田の歴史より)

その昔成田ニュータウン地区は、「公津原」と呼ばれ、一面に原野が広がっていました。江戸時代末期の安政5年(1858)、赤松宗旦が『利根

川図志』の中で「神津八十墓在り」と紹介し、この一帯に多くの古墳が存在することが知られるようになりました。実際、ニュータウン内には、市内の古墳の3分の1を超える130基前後の古墳が確認されています。北から八代台古墳群(玉造地区)、天王・船塚古墳群(吾妻・橋賀台・赤坂地区)、瓢塚古墳群(加良部・赤坂地区)の三つに分かれ、これらを総称して公津原古墳群と呼んでいます。

昭和44～46年、成田ニュータウン建設で半数以上の古墳が消滅しましたが、関係者の努力により公園や緑地として保存され、平成2年には現存する40基の古墳が県の史跡として指定されました。出土した土器や鏡・馬具・埴輪、また、鍍金や象嵌技術の普及を示す耳飾りや刀などの副葬品は、県立房総のむら風土記の丘資料館(栄町)で収蔵され、その一部が展示されています。

残された主な古墳を挙げると、保健福祉館に隣接する赤坂公園内には全長86mの船塚古墳があります。市内最大規模を誇る古墳で、全国でも珍しい形をした前方後方墳(つづみ形)で、周囲には2重の溝が巡っています。そのほか吾妻神社

バス停西側には、ニュータウン内最大の前方後円墳である天王塚古墳(全長63m)、吾妻北団地内には全長35mの石塚古墳、加良部小学校・西中学校の西側には全長52mの前方後円墳である瓢塚古墳、外小代公園内には25mの前方後円墳と8基の円墳などがあります。

発掘調査の結果、公津原古墳群は6～7世紀を中心に築造された古墳群です。また、最近の調査からは、船塚古墳・天王塚古墳などからは埴輪の破片が採集され、古墳に埴輪を配置し多彩な葬送儀礼が行われていたことが考えられます。船塚古墳に上がると、その大きさに圧倒され、権力をお墓の造営によって象徴した古墳時代を体感するでしょう。保存されている40基の古墳は、そのほとんどが見やすい場所にあるので、一度散策をしてふさと成田の古代遺跡に触れて見てはどうでしょうか。



地区センタービル(赤坂)からボンベルタ百貨店に向かう歩道の左側にあるニュータウン古墳マップの案内板。保存されている古墳の位置が分かります

編集後記

現在本市と友好・姉妹都市提携しているのは4カ国・5都市(4ページ)。都市の形態や規模、文化もさまざまです。咸陽市などは面積が10,213km²で人口483万人、市の中が県に分かれていますから日本とまったく逆です。また、中国では

上下関係が生じるということで姉妹都市という言葉は使いません。とにかく「百聞は一見に如かず」。海外交流を支援する制度もありますから、皆さんもこれらの都市の人たちと親交を深めてみてはいかがでしょうか。